

令和2年7月豪雨災害見舞金 指定寄付金

■熊本教区
【銀行振込】
 肥後銀行上通支店
 口座名：令和2年7月豪雨災害見舞金
 熊本教区教務所 代表 宮川善裕
 口座番号：普通預金 1818631
【郵便振替】
 口座名：浄土真宗本願寺派熊本教区教務所
 口座番号：01950-2-1881
 ※他金融機関からの振込口座番号は
 一九九店 当座0001881

■宗派「たすけあい運動募金」指定寄付金
 ○郵便振替：01000-4-69957
 加入者名：たすけあい募金
 ○銀行振込：ゆうちょ銀行 一〇九店（当座）
 0069957 名義：たすけあい募金
 ※共に通信欄に「令和2年7月豪雨」と記入

令和2年7月豪雨被害報告③

各教区の報告に基づき本山・社会部(災害対策担当)が作成(前号の続き)。8月3日現在、問い合わせは同部 ☎075(371)5181。

◇**【岐阜教区】**▽郡上市・教林寺(勝水斎住職) 所有の山林土砂崩れ。

▽福岡教区▽朝倉市・正福寺(荒木哲朗住職) 部崩落

▽備後教区▽福山市・光行寺(荻屋光彰住職) 境内地崩の一部損傷

▽鹿島市・光厳寺(吉良泰文住職) 境内地一部崩落

▽佐賀教区▽佐賀市・報恩寺(井石宣雄住職) 本堂内陣、外陣雨漏り

▽鳥栖市・戒円寺(佐藤芳実住職) 渡り廊下

▽大分教区▽玖珠町・善専寺(志津里恵由住職) 本堂裏側崩落

▽大分教区▽大分市・本堂裏側崩落

▽大分教区▽大分市・本堂裏側崩落

▽大分教区▽大分市・本堂裏側崩落

駐車場の土砂流出



アパートで避難生活を送る有吉さん家族。森真仁住職(左)が届けた「生活用品セット」には、茶碗、箸、コップ、フライパン、マスク、消毒液など25品目が入っている

令和2年7月豪雨 被災地を訪ねて 大分

令和2年7月豪雨により大きな被害を受けた大分県。日田市天瀬町赤岩地区では7月7日深夜に大規模な土砂崩れが発生し、教念寺(森真仁住職、玖珠町門徒・有吉正博さん(61)の自宅母屋が全壊した。被災から約3週間が過ぎた同月31日、震災支援を続ける会(石崎博毅代表幹事、堺市・大円寺衆徒)が用意した「生活用品セット」を携え、日田市内のアパートで避難生活を送る有吉さん一家を見舞った森住職に同行し、正博さんの妻・富久美さん(61)に被災当時の状況や現在の心境などを聞いた。

20キロ離れた自宅に戻り仏壇にお参り

阿弥陀さま、先祖のおはたらきが困難生き抜く力に

土砂崩れで自宅が全壊した天瀬町・有吉さん

「避難した近くの小学校の校庭に停めた車の中で一晩泣きました。これまで築き上げてきたものが一瞬にしてなくなってしまう。これからどうすればいいのかと考えると不安がこみ上げてきて、富久美さん(61)は少し目を潤ませた。

7月6日から降り続いた豪雨によって、7日午後11時頃に自宅裏の山肌が高さ約50メートル、幅約25メートルにわたって崩れ落ちた。大量の土砂や倒木などに襲われた有吉さん宅は、別棟の座敷や仏壇などを残し、台所、居間、寝室などの家族の居住空間だった母屋が全壊した(写真下)。倒壊した築100年以上の母屋は6年前にリフォームしたばかりだった。

「逃げた方がいい」。近所に住む親戚からの電話を受け、有吉さん夫妻と次男の正孝さん(33)が自宅を出たのは、土砂崩れが起こる一時間前だった。道路に散乱した石をよけながら車で避難所となっていた近くの小学校に到着した際、正孝さんが「何か変な音がした」と言ったが、それが裏山の崩れる音だった。教念寺の門徒総代も務めた義父・五雄さん(87)は昨年9月から特別養護老人ホームに入居しており、難を逃れた。



一夜明けて自宅に戻らずか10分前だった。道路に散乱した石をよけながら車で避難所となっていた近くの小学校に到着した際、正孝さんが「何か変な音がした」と言ったが、それが裏山の崩れる音だった。教念寺の門徒総代も務めた義父・五雄さん(87)は昨年9月から特別養護老人ホームに入居しており、難を逃れた。

「避難した近くの小学校の校庭に停めた車の中で一晩泣きました。これまで築き上げてきたものが一瞬にしてなくなってしまう。これからどうすればいいのかと考えると不安がこみ上げてきて、富久美さん(61)は少し目を潤ませた。

7月6日から降り続いた豪雨によって、7日午後11時頃に自宅裏の山肌が高さ約50メートル、幅約25メートルにわたって崩れ落ちた。大量の土砂や倒木などに襲われた有吉さん宅は、別棟の座敷や仏壇などを残し、台所、居間、寝室などの家族の居住空間だった母屋が全壊した(写真下)。倒壊した築100年以上の母屋は6年前にリフォームしたばかりだった。

「逃げた方がいい」。近所に住む親戚からの電話を受け、有吉さん夫妻と次男の正孝さん(33)が自宅を出たのは、土砂崩れが起こる一時間前だった。道路に散乱した石をよけながら車で避難所となっていた近くの小学校に到着した際、正孝さんが「何か変な音がした」と言ったが、それが裏山の崩れる音だった。教念寺の門徒総代も務めた義父・五雄さん(87)は昨年9月から特別養護老人ホームに入居しており、難を逃れた。

困難な状況に置かれた有吉さん家族を励ましたのは森住職(46)。水や食料を持って避難先を訪れ、墓が被災し遺骨のことを心配する有吉さん夫妻の相談に乗っている。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。

東北の被災地から 本願寺へ懇志届く

「コロナで大変なことが起こり、店舗兼住居も全壊した。宗派の復興支援活動で本願寺との縁を深め、4年前には本設店舗をオープンした。

「今の私が信念を持って立ち向かえたのは、ご本山の皆さまのおかげ」と普原さんは懇志を寄せた思いを話した。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。

富久美さんは時間をかけては天瀬町の自宅に戻り、仏壇にお参りしている。「いつでも、どんな時でも私たちが見守ってください」と感謝しつつ家族で力を合わせて強く生きていく。